



調剤過誤防止ピッキングシステム

正 *Tadashi*

バーコード読み取りで
モノ間違いによる調剤過誤を防止

- 薬局規模や調剤方法に合わせた運用が可能
- 充填時鑑査機能により、自動錠剤分包機や散薬調剤の安全性も高められる
- 統計機能で改善状況が一目でわかり、店舗管理指導が適切に行える
- 予製剤の鑑査も可能(オプション)

■ 主な業務機能紹介

● 鑑査方法は2通り

薬局様の運用形態に合わせた鑑査方法を選ぶことができます。

入力後運用

一人の患者様毎に薬品鑑査の方法を切り替えて行う運用ができます。処方箋入力が遅れている場合は薬品バーコードを先に読み込んで先行調剤を行えば、素早く投薬できます。また処方箋入力が先に完了している場合、一薬品毎に即時鑑査を行えば、その場で取り間違えに気づくことができます。



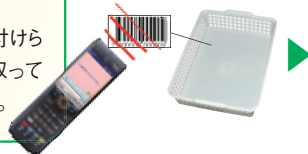
薬品BOX運用

ピッキングと鑑査を別の薬剤師様が行う運用ができます。調剤者が集めた薬品カゴ内の薬品データを一時的に保存し、鑑査者が薬品カゴ内のデータを呼び出して鑑査を実行できます。

ピッキング

薬品カゴ情報読取

あらかじめ薬品カゴに貼り付けられているバーコードを読み取って薬品カゴ情報を記憶します。



ピッキング

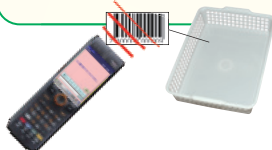
薬品棚のバーコードを読み込みながら薬品を一つずつ集めます。



鑑査

薬品カゴ情報読取

薬品カゴに貼り付けられているバーコードを読み取って薬品カゴ内の薬品情報を読み取ります。



患者特定

支援票等のバーコードを読み取って、薬品カゴ内の薬品がどの処方箋のものかを特定します。



鑑査結果表示

集めた全ての薬品が正しいという結果を表示します。取り間違えの場合はピッキングし直します。



最終鑑査

薬袋や薬情も含めて最終確認をします。

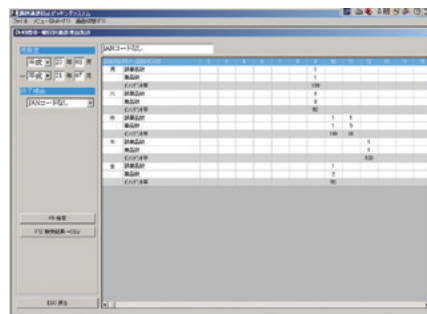
● 充填時鑑査

充填する薬品のバーコードと、薬品棚に貼ってある薬品のバーコードを読み取って鑑査する事で充填ミスを防ぎます。

● 統計機能

店舗での鑑査実施状況について、以下の統計データを見ることができます。ピッキングミスの状況・原因を分析して対策を立てることで、調剤過誤防止に繋がります。

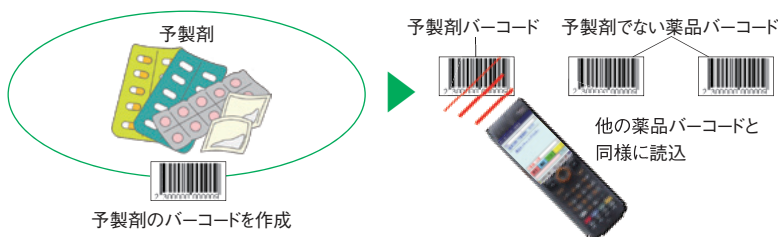
- ・薬品別集計
- ・調剤者別インシデント集計
- ・時間帯・曜日別過誤集計
- ・時間帯・曜日別過誤理由



■ オプション

● 予製剤鑑査

予製剤作成時に間違いがないか鑑査し、作成した予製剤は調剤時にまとめて一つのバーコードで読み取って鑑査する事ができます。



● 本部システム

チェーン店の本部様向け機能です。各店舗の鑑査実施状況の集計を取る事ができます。

NSIPS準拠
NSIPSとは、日本薬剤師会が提案する薬局向けコンピュータシステム間の連携システムです。
NSIPSは社団法人福岡県薬剤師会の登録商標です。(商標登録 第5214610号)

【企画・開発・販売・保守】

インフォテクノ株式会社

本社:〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目1-10 ITCセンタービル
TEL 011-633-9990 FAX 011-633-9991
関東支社:〒220-0011 横浜市西区高島2丁目19-3 日通商事ビル8F
TEL 045-442-0671 FAX 045-442-0681
URL <http://www.infot.co.jp/>
E-Mail eigyoun@infot.co.jp